

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073500318
法人名	社会福祉法人 慈愛会
事業所名	グループホーム富の里
所在地	福岡県前原市大字富508-4 (電話) 092-324-9333

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】 (平成19年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算 14.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建ての 1 ~ 2 階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,800 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年8月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今津赤十字病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、山の傾斜地に立地し、緑豊かな木々に囲まれた美しい自然の中にある。母体法人が運営する特別養護老人ホームに併設されている。3階建ての建物の1・2階が事業所、3階が生活支援ハウスである。玄関や居住空間は、花や季節の飾り物で彩られ、和やかな雰囲気である。利用者主体のサービス提供を行うため、管理者や職員が一同となって心がけ、実践している。全職員の意見を反映させた介護を行うため、意見聴取表の活用や、介護計画作成前にミニカンファレンスを実施する等、サービス向上のために独自の工夫や取り組みを行い、着実に実行している。利用者一人ひとりを、大切な独自の存在として尊重し、心のふれあいを大切にするという法人の理念が日常生活やケアの中に浸透している。地域の方とのふれあいを大切にするという事業所の理念を実現するために、地域行事への参加も積極的に行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価での改善課題について、問題点を明確にし、改善に向けた目標や期間・頻度を明らかにし、改善計画を具体的に立て優先順位をつけて取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価は全職員が各自実施し、月1回サービス評価委員会で話し合いを行い、更に職員会議で協議して、必要に応じて管理者が再度職員から意見聴取をしながら取り組んでいる。
	重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	町内会に加入し、校区の敬老会や夏祭り等の行事に利用者・職員ともに参加している。また近隣の幼稚園の行事へ参加、小学校教師の見学、学生ボランティアや実習生の受け入れ等を積極的に行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中のグループホームを目指す、入居者の方と地域の方とのふれあいを大切にする」という、地域密着型の視点を盛り込んだ事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を朝礼時に唱和し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、校区の敬老会や夏祭り等の行事に利用者・職員ともに参加している。また近隣の幼稚園の行事へ参加、小学校教師の見学、学生ボランティアや実習生の受け入れ等を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が各自実施し、前回評価での改善課題と併せて、月1回サービス評価委員会で話し合いを行い、更に職員会議で協議して、必要に応じて管理者が再度職員から意見聴取をしながら取り組んでいる。評価を活かして、介護計画の共有化等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況の報告や話し合いを行い、委員からの意見・要望等、サービス向上に活かしている。メンバーには利用者や家族の代表も参加し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政に対して、事業所運営やサービスに関する課題の話し合い・要望の訴え等を行うため定期的に行き来し、課題解決に向けた協働を行っている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修には一部の職員が参加し、パンフレットや資料は常備している。家族等には来訪時に説明している。内部研修の開催は行っていない。</p>	○	<p>全ての職員が必要に応じて家族等に説明ができるように、内部研修の開催を行い、知識の習得に努めてほしい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りは、創刊号を発行している。2ヶ月ごとに利用者の暮らしぶり・健康状態を文書にして送付している。家族の来訪時や利用者の緊急時は必ず状況報告を行っている。金銭管理については、3ヶ月ごとに金銭出納帳や通帳明細のコピーを送付している。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時にはお茶を出し、意見や要望を気軽に表出できるような雰囲気作りや声かけを行い、意見箱も設置している。家族の意見や要望は、介護計画の目標に取り入れて改善する等の取り組みを行っている。第三者相談窓口については、契約時や機会があるごとに説明している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を必要最小限に抑えるため、管理者等が日常的に職員の相談を行っている。また毎月の会議や半年ごとの面接時等に、意見を聴取する機会を設けている。職員が代わる時は引継ぎの期間を考慮し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。利用者や職員の馴染みの関係を保つために、ユニット同士の合同行事を取り入れる等の取り組みを行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等に関係なく適性を考慮し、複数の合議により決定している。出勤や異動等は職員の希望を可能な限り取り入れる等、安心して働ける職場環境を目指している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月、全職員が参加する全体研修会を外部講師を招いて実施している。高齢者の尊重・虐待防止等の人権に関する研修を行い、研修時の資料や報告書を保管している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「職員の活性化を図る」という事業計画の方針により、職員各自に応じた具体的な研修計画を立てている。研修は外部研修・内部研修ともに報告書の作成を行い、全職員が研修内容を共有できるように、会議等で報告している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	糸島地区居宅支援事業者連絡協議会のグループホーム部会に加入している。他の事業所を利用者とともに見学したり、同業者と運営やサービスに関する共通の課題について意見交換を行う等、サービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、見学や職員による自宅訪問等を行っている。サービス開始時は利用者の意向やペースを尊重し、集中的に見守りや観察を行っている。職員同士も詳細に申し送りを行い、徐々に事業所に馴染めるよう、家族と相談しながらサービスを実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や園芸等を共に行い、職員が知らない知識や技を利用者から教えてもらう場面がある。糠漬けやうどんの麺づくり、畑での鍬の使い方等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を、利用者の言葉や表情、行動等から把握し、介護計画に反映させている。本人の希望や意向の把握が困難な場合は、家族から聞き取った生活史等を参考にする等の取り組みを実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や希望を尊重しながら、個別で具体的な介護計画を作成している。全職員参加のケアカンファレンスや意見聴取表により、職員の意見や気づきをその都度介護計画に反映させている。家族へ介護計画を説明し、同意に関する押印をもらっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際には定期的に病院訪問を行い、医療関係者や家族と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。本人や家族の状況に応じて、通院等は個別に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの受診経過や希望を把握している。希望する医療機関での受診だけでなく、事業所で協力医療機関も確保し、利用者及び家族があらゆる選択肢を可能にできるよう支援している。家族と通院方法や情報の伝達方法について話し合い、了承を得ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期において、事業所が対応し得る支援について、入居時や必要時に家族に説明を行っている。重度化や終末期のあり方について、個別の利用者ごとに必要時にその都度事業所に対応を話し合っているが、本人・家族等、かかりつけ医、全職員で方針を共有するまでは至っていない。	○	利用者や家族等の意向を大切にしながら、本人・家族等、かかりつけ医、職員で話し合い、全員で方針を共有してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人に設置しているサービス評価委員会の取り組みにより、言葉遣いや態度について具体的な様式を用いて職員の気づきを深めている。利用者の尊厳を大切にするための取り組みは、内部研修やミーティング時にも繰り返して行っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆるやかな1日の流れはあるが、起床や食事時間等、一人ひとりの状態や気持ちに配慮しながら、柔軟に対応している。レクリエーション等も全員参加ではなく、本人の希望を尊重しながら個別に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒に準備や片付けを行っている。一部職員は利用者と同じ内容の食事を同じテーブルで食べているが、他の職員は見守りに徹している。	○	食事の見守りを行う際は、自然にさりげない雰囲気で行ってほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の体調や希望にあわせて柔軟に対応している。入浴拒否する利用者は、成功事例を基に職員で検討し、対応に工夫を凝らし、改善した事例がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、畑仕事、糠漬け作り、習字、裁縫等、楽しみごとも含めて一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩や夕食の食材の買い物を行っている。定期的に誕生会の外食やドライブ等の企画も実施している。また利用者や家族等から買い物等の要望があれば、その都度、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室・玄関ともに施錠していない。利用者の外出傾向を把握し、玄関に設置したチャイムや見守りで対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年に数回、避難訓練を行っている。事業所のみで行う場合と母体法人と合同で行う場合がある。非常用食料や備品は、準備している。避難訓練を実施する際、地域住民に対する呼びかけや参加は行っていない。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量及び水分摂取量を、利用者ごとに記録して把握している。献立メニューは管理栄養士が作成している。夕食のおかず一品は事業所で利用者の希望にあわせて作るが、それについても毎日、管理栄養士からチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や職員が作成した季節感のある絵や折り紙で彩り、畳のスペースやゆったりしたソファ等を配置して、居心地のよい雰囲気である。テレビはつけっぱなしにせず、利用者の希望にあわせてつけている。光の強さ等はカーテンで調節している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた小箆筒、テレビ、ちゃぶ台等を持ち込み、写真や人形等が飾られている。趣味のキーボードを持ち込み楽しんでいる利用者もおり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。